

大人が絵本を 第58回 命と生命と



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

めぐるいのち、つながるいのち

いのちはめぐり、つながっていく——

かなしみの色は、どんな色？

それは夜明けまえの深いブルー。

でも、やがて虹色に変わり、

新しいいのちを生みだすのです¹⁾

(柳田邦男氏)

『いのちのふね』
鈴木まもる 作
(講談社)



優しいブルーの色調の表紙に、思わず吸い込まれてしまう絵本『いのちのふね』の帯には、ドキュメンタリー作家で、「大人こそ、絵本を」の提唱者である柳田邦男氏のメッセージが添えられています¹⁾。人は生まれ、生きて、やがて死んでいきます。そして、いのちはめぐり、つながっていくのです。

多くを語らず、青と白だけの繊細な絵で、「生」と「死」と「再生」、そして「希望」が描かれ、それだけを聞くと重いテーマのようにも受け止めてしまいがちですが、その世界には清々しく未来に続く温かさがあります。

大切な人(ペット)を亡くした方、新しい命を待つ方、新しい命を宿した方へ、何を語らずとも、本書をただ、そーっと差し出すだけで、立場の異なる様々な人の気持ちを癒し、ある方は救われ、また、ある方には希望を与えてくれるいのちの絵本です。

授かるいのち

女性の社会進出を実現させた平成時代は、晩婚化や晩産化を生み、その結果、不妊治療を受ける人が増えています。子どもが1人いても、次の子ができない「2人目不妊」の悩みをもつ夫妻も増加しました²⁾。

このような社会背景においては、妊娠・出産にかかわる新しい動きもみられています。昭和時代には聞かれなかった「妊活」が既に定着し、専門の雑誌まで登場しました。女性がパートナーのいない段階から、人生のプランに「妊娠」を組み込む時代となっているのです³⁾。「妊活」という言葉が広まり始めたのは、お茶の間で知名度の高い女性芸人トリオの一人が2014年に「妊活休業宣言」を行ったことで、国民は様々な反応をもって注目しました。そして今や、芸能人だけでなく、一般の方もブログで公表したり、妊活を支援する制度を導入する企業が出てきたりと、社会的な認知度も高まりを見せています。

こうした「妊活」の道標となったのは、2011年に不妊治療を公表したプロゴルファーの東尾理子氏ではないでしょうか。当時の不妊治療とは、「生殖機能にトラブルのある人が行う治療」という捉えられ方で、重いイメージが付きまとい、有名人の公表以外ではオープンにされることはありませんでした。理子氏は公表後、「不妊」ではなく、TGP (Trying to Get Pregnant = 「妊娠しようと頑張っている」の意味) と造語を生みだしたり、同じように悩む女性たちとお茶会をしたり、治療の経緯をブログで報告したり、明るく前向きな発信を続け、その後、治療詳細記録と治療中に一番知りたかったことをまとめた本を出版したのです⁴⁾。日本における子作り事情のイメージを一新し、「妊活」を一般化させた立役者と言えるでしょう。



大人が絵本を求めるとき

「友だち(または姉妹)が妊娠したので絵本を贈りたい。妊婦向けのおすすめ絵本を教えてください」

手にするときは！

いのちと

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

「プレママがリラックスできる絵本を教えてください」
「産科クリニック（または周産期病棟）に絵本を設置したい。病院向けのおすすめをリストアップして」
「妊活中の大人に手渡す絵本を紹介してほしい」
「流産した友人に絵本を贈りたい」

これらは、この1～2年以内にビブリオでお受けした読書相談です。女性誌で「妊活」特集が出現し、妊活本が出始めた2012年に、時を同じく開館したビブリオキッズ&ベイビーでお受けする最も頻度の高いご相談は、赤ちゃんへの絵本の読み方・選び方です。この7年間で1,000件を超える応答を行い、たくさんの幸せの種をまいてきました。絵本のご相談に、妊婦さんなど大人目線のレファレンス（参考業務）が目立ってきたことは時代の特徴でしょう。

妊活中の方やプレママ向けにおすすめしている絵本の中で、ビブリオでもっとも好評を得ている絵本が、冒頭の『いのちのふね』なのです。ご相談をお受けする際、探し求めている特定のものでない限り、ご提示する絵本は5冊～10冊、場合によってはそれ以上として、選択の幅を持てるようにしています。同じ相談事項であっても、ご相談者が異なれば、感性や好みも異なってきますので、「この絵本」として一冊に限定することはありません。

プレママ向けでは、『あかちゃんのうた』（松谷みよ子 文）や『あかちゃんあかちゃん』（高木あきこ 作）、『おひさまとおつきさまのしたで』他、妊婦さんが穏やかな気持ちになれる絵本を10冊程度ご提

示する中、気持ちを絵本に託して贈り手となる方も、ご本人様も、精神衛生環境を整える医療従事者の方も、性別を問わず誰しもが感銘を受けるほど、『いのちのふね』は大人の心に深く響いている絵本なのです。時代は、大人たちをごく自然に絵本へと向かわせる流れにあります。

産まない自由に、産む自由

「妊活」とは、イコール「不妊治療」ではありません。育児雑誌「たまひよクラブ」でお馴染みのベネッセコーポレーションが、2014年に創刊した「妊活たまごクラブ」の編集長である米谷明子氏は、「最愛の人と出会ったとき、『二人でどうやって生きていこう』と将来のことを考えることも広義の『妊活』で、いずれ子どもを持つのか、いつ持とうか、子どもを持たない生活はどうだろうか考えること」と言い、さらに「不妊治療はあくまで妊活の一つの選択肢であって、どの段階まで治療するのかを選ぶのはその人の選択次第。そして『産まない』と決めることも妊活の一つ」と示しています³⁾。

「子どものいる人生とは違う人生を歩みたい」と、結婚から20年以上たって「産まない」生き方を明かした芸能人夫妻は、2016年発売の雑誌に、女性側のインタビュー記事が掲載されると、「無責任」などの心ない世論が飛び交いました。もちろん、女性たちによる賞賛の声もありました。

個々人が、どんな人生を選択しても尊重され、安心して生活できる社会の実現が令和時代に求められます。この夫妻もまた、TGP公表や妊活休業宣言をした有名人と同じく、「妊活」の立役者となり、新しいイメージを開拓してくれたのです。

『おひさま おつきさまのしたで』
マーガレット・ワイズ・ブラウン作
黒井健 絵
(教育画劇)





絵本で妊活

将来出産を望む20代前半の未婚女性から、高齢出産を想定して早くから妊活に取り組む30代キャリア派まで、今あらゆる層で妊活が増加し、そんな女性のニーズに応じて、独身女性を対象とした妊活セミナーや妊活レシピ本も登場しています。

『あかり』
林 木林 文
岡田千晶 絵
(光村教育図書)



暗がりの中真ん中で、柔らかな光を放つ1本のろうそくが立ち、ゆらゆらと揺れているかのような炎の上部に「あかり」と記されたシンプルな表紙を見て、この絵本が物語るテーマは何だと連想されるでしょうか。

一人の女性が生まれてから老いるまでの生涯を、1本のろうそくの「あかり」が灯し続ける物語です。大人になって家を巣立ち、そして、この女性は結婚して子育てをする姿が描かれていますが、年老いたときは一人です。ライフプランの設計段階で、自己と対話しつつ将来をイメージするのに活用できる絵本です。

あるいは、女性が、自分らしく輝ける人生を築くための座右の絵本として、親御さんから娘さんへのステキな贈りものともなるでしょう。

人生を豊かに、自分らしく

パートナーを得たときの妊活も、妊活のひとつの選択肢である不妊治療も、女性が一人で行うものではありません。男性と女性が一緒に「妊活」を考える絵本として紹介するのは、ベルギーの女性作家ガブリエル・バンサン氏の『老夫婦』です。本連載に長くお付き合いいただいている読者の方にはファンもおられるかもしれません。本誌2015年3月号の連載第5回でご紹介しました、『アンジュール』や

『たまご』など文字のない絵本で大人を魅了するバンサン女史です。

登場するのは、タイトルにみられるとおり、老夫婦の2人だけです。しかも、バンサン氏の特徴であるモノトーンのデッサンは、何とも陰うつな夫婦の姿が描かれています。そして、「年老いたふたりには、いまはもう話すこともなく、ときおり、おたがいにそっと目をやるばかり。もうゆめもなく、思いやりがあるばかり」と語られます⁵⁾。

20代の男女が老後を考えるのは難しいとのご指摘もあるかもしれませんが、長い人生の先を思い描くこともライフプランニングです。バンサン氏の描く老夫婦に行きつく過程において、「子どもは持とうか、何歳くらいで持とうか、子どもを持たない生活は？」などと語り合うことが2人の「妊活」なのです。

絵本『老夫婦』は、ジャック・ブレル氏の歌う同名のシャンソンに、バンサン氏が感銘を受けて表現された作品であると、表紙カバー見返しに記されています。ブレルのシャンソンの何が、そんなに心を揺さぶるのか自問を繰り返して、その気もちを「線と光と影」で見事に表現したのです⁵⁾。余分なものは切り削いだバンサン氏の『老夫婦』に、一人と一人が二人となって、新しい生活をはじめめる若いカップルに向けた人生設計の手ほどきが表示されているのです。

本書は、妊活本としてだけでなく、あらゆる世代の夫妻におすすめです。倦怠期のお二人に、お子様が巣立ちのときを迎えているお二人に、互いの定年が近づいているお二人に、どちらかが定年退職を迎えたお二人に、これからの人生を考える逸材です。

「子なしハラズメント」

本原稿を執筆真っ最中の5月末日、議員の問題発言がマスメディアで繰り返し報道され、もはや嘆息しかありませんでした。議員たちが代わるがわるに国民の家族計画に口出しをするのか、理解に苦しみます。少子化対策に取り組むのであれば、妊活支援

や育児支援、就業支援の環境作りが急務なはずで
す。子どもがほしくても、経済的理由や就業との兼
ね合いなどで、安心して妊活できない夫妻を支援す
る方策を構築していくことが本来任務ではないで
しょうか。

また、子どもがほしいと願っても授かることで
できない夫妻も多く存在します。もっと向けなければ
ならないまなざしがたくさんあると思うのです。「子
なしハラスメント」や「マタニティハラスメント」も
社会問題となっています。

議員の不適切発言から2週間後、国連児童基金(ユ
ニセフ)より、日本は男性の出産休暇・育児休業期間
が41カ国中1位と長い半面、取得率の低い特異性を
指摘されました⁶⁾。日本国民のための議論と改革を、
この国の議員さんに進めていただきたいと願います。

たいせつなこと

皆さまの周りに、妊活や不妊でお悩みの方がおら
れたら、どうぞ、『いのちのふね』をそーっとお渡し
下さい。絵本は、大人の心を支えたり、癒したり、希
望を与えたり、ときに人間では成し得ない力を肩代
わりしてくれるのです。

おしまいに、隠し絵本を登場させましょう。「あな
たにとって、大切なこととはどんなことか」「あなた
と家族にとって大切なことは何か」⁷⁾を問いかけて
くる『たいせつなこと』は、マーガレット・ワイズ・
ブラウン氏が1949年に米国で出版した絵本で、半世
紀以上経った2001年に日本で邦訳出版の実現した
作品です。

今、大切なこととは何かを問われ、そして、それ
は「あなたが存在している」ことだと説いてくれるの
です。普遍性のある大切なことに向き合う時間は、
誰にも必要なことなのです。

あなたの選んだ人生、それが「正解」

女性の社会進出が推進される一方で、「少子化に歯

止めを」「子どもを〇人産みましょう」など、矛盾した社
会に悩まされているのは、女性たちです。

「産む、産まない、産めない」、「いつ産むか、何人
産むか、いつまで産めるか」、妊活事情は人それぞれ
で、それは尊重されなければなりません。子どもを
持つ、持たないは個人の価値を決めるものではない
のです。

小説『産む、産まない、産めない』の巻末解説で大
矢博子氏は「産むか産まないかに正解などない。本人
が考え、家族が考え、そうして決めた道が、その人に
とっての『正解』と説き、「女性にはその選択を正解だ
と思える強さが、周囲の人にはその選択を正解だと背
中を押す優しさの持てる社会」を希求しています⁸⁾。

時代とともに、社会はどんどん変わっています。
「親になって一人前」とか「結婚したら子どもを産む
のは当たり前」など、言わば時代錯誤の「常識」を
拭って、様々な立場の人が生きやすい社会が令和時
代の課題でしょう。既存の枠に捕らわれないで、視
野を外に向けて広げ、自分らしく伸び伸びと生きる
指南が、絵本にはあるのです。



文献

- 1) 鈴木まもる：いのちのふね、講談社、東京、2011。
- 2) 国立社会保障・人口問題研究所 編集：平成27年現代日
本の結婚と出産、厚生労働統計協会、東京、2017、p.47-48。
- 3) 米谷明子：「産まない」選択も妊活の一つ。『妊活たまご
クラブ』編集長が考える妊活の本質、ウエディングパー
ク HP <https://kekkon-ashita.weddingpark.co.jp/>
- 4) 東尾理子：「不妊」じゃなくて、TGP - 私の妊活日記、主
婦の友社、東京、2012。
- 5) ガブリエル・バンサン絵、ジャック・ブレル詞、今江祥
智訳：老夫婦、BL出版、東京、1996。
- 6) ニューヨーク共同：日本男性、制度1位も育休取らず
国連が指摘、共同通信社 HP <http://www.msn.com/ja-jp/news/national/> 2019.6.13。
- 7) マーガレット・ワイズ・ブラウン作、レナード・ワイ
スガード絵、うちだやこ訳：たいせつなこと、フレー
ベル館、東京、2001。
- 8) 甘糟りり子：産む、産まない、産めない、講談社、東京、
2017、pp.310-317。